



2014年から毎年1カ所に集まって続けられてきた「なくそテ原発集会」。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、リモート・スタンディングの形で、9月6日にカニ池交差点付近で約80人が参加して盛大に行われました。

猛暑の下でしたが、静かにPRするサイレントスタンディングとして、市民に目で訴えようと、上杉謙信やレルヒ少佐、カップなど趣向を凝らした仮装や浴衣で市民の目を引きました。また、中にはバイオリンの演奏に合わせてリズムカルに手を振りながら、大きな手作りの横断幕やプラカードなどで、「なくそテ原発」を市民に訴えた人たちもいました。

交差点を通るクルマからは、手を振るなどの大きな激励があり、市民の間に「なくそテ原発」が共通の思いになっていることがあらためて確認されました。



各分野で決算審議

9月定例議会 委員会審議

手話通訳・要約筆記 昨年度は389回派遣 厚生常任委員会

厚生委員会の審議では、聴覚障がい者向けの要約筆記サービスの取組について、平良木議員がたどりました。

市によると、手話通訳や要約筆記は昨年度1年間で389回の派遣要請に応え、547人を派遣したとのこと。

ただ、この派遣数は手話通訳と要約筆記の合計数で、内

訳としては圧倒的に手話通訳が多く、要約筆記はごく少ないのが実態のようです。重ねてたどした平良木議員に、市は「要約筆記ができる人は現在6人」と答えました。

手話は聴覚障がい者にとつては言語そのものであり、非常に大事なコミュニケーション手段ですが、中途失聴者の多くは手話になじみがないの

が実情です。それだけに、使った慣れた文字で会話を交わすことのできる要約筆記が重要な交流手段です。

市は、「要約筆記の派遣を要請される例は多くはないが、要請があればできる限り対応する」という姿勢を示しましたので、会合や面談などの際には気軽に市に相談してみてもいいのではないでしょうか。

ウェブアクセシビリティ 障害者福祉計画にも反映を 総務常任委員会

総務委員会の審議では、市のホームページの見やすさ・使いやすさなどの指標となる「ウェブアクセシビリティ」に関して、橋爪議員が指摘を行いました。

だれもがすぐに見ることができて、見やすく使いやすいホームページにするなど、情報提供体制を整備すべきだという指摘に対して、市は総務

省の指針を基にして改善を図っていると答えました。

橋爪議員はさらに、市の「障害者福祉計画」などにもその視点を反映させることが重要だと指摘。総務管理部長は、「これらの計画は今年が改訂の時期なので、障がい者のみなさんにも使いやすいように反映させていきたい」と答えました。

「ウェブアクセシビリティ」とは、「高齢者や障害者など心身の機能に制約のある人でも、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること」を意味します。

ウェブ(インターネットの情報)は、高齢者や障害者にとっても重要な情報源になりつつあります。しかし、実際に提供されているウェブページは、高齢者や障害者にとって使いにくい、あるいは使えない作りになっているために、内容を知ることさえできないことが少なくありません。

例えば、非常に小さい文字でたくさんの情報を提供しているウェブページは、弱視の人や多くの高齢者が判読できない場合があります。このようなウェブページを「アクセシビリティが確保されていないページ」と言います。

上越保健所管内感染症発生状況

(9月12日現在)

PCR検査実施件数 1,351件

感染症患者数 14人(上越市内13人)

8月31日に報告された「感染症患者」は、後に届出が取り下げられたため、数には含みません。

陽性率 1.04%

日本共産党上越市議員団ニュース

No.674 2020年9月20日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)

絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)

先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))